

▼関西

「丹波黒豆栽培企画」

22年目の枝豆収穫

高井 久雄(KTV)

全国に数多ある同好会活動の中で、コロナ禍の影響を全く受けていないただ一つの同好会、それが、我が関西民放クラブの「丹波黒豆栽培企画」ではないだろうか。

活動は年4回のみ。すなわち、6月に畑に苗を植え、7月に草引き・追肥・土寄せを行う。その後は、10月にまずビールの友、枝豆として半分収穫、残り半分は11月に正月用の黒豆を収穫する。この間の畑の世話は農園のほうでやってくれ、こちらは何もしなくてもいい。すべて野外の作業なので、コロナ禍でも休むことなく活動を行うことができた。年会費はわずか3500円、これだけで、一家族ではとても食べきれない大量の高級食材・丹波黒大豆を2回に分けていただけ。町中で1万円はくだらないという極めてオイシイ同好会なのだ。この同好会も今年で22年目



を迎えた。10月8日は22回目の枝豆収穫日、会員達が兵庫県三田市の貸農園に集まった。雨が続けていたので当日の天候が心配だったが、なんとこの日だけ秋晴れ。爽やかな気候の中、一同楽しく作業をすることができた。この同好会の唯一の問題は、会員の高齢化が進んでいることだ。年4回だけとはいえ農作業を伴うため、体が動かなくなればできない。来年は新しい会員にも参加してもらい、この全国に例を見ないユニークな同好会をずっと続けていきたいものである。

関西民放クラブ 散策同好会

田仲 和彦(TVO)

9月29日(木)、今年3回目となる例会「仁徳天皇陵・大仙公園、映像と緑を楽しむ」を開催した。18人(男性10、女性8)が参加、第7波コロナ禍が収まりを見せてきた初秋の好天のなか、大阪・堺市が誇る世界遺産をゆつくり楽しんだ。

午前10時、JR阪和線・百舌鳥(もず)駅に集合。まず、昨年3月に開設された百舌鳥古墳群ビクターセンター内のシアターで、素晴らしい8K空撮映像を鑑賞、古墳時代から現代に至る堺市の歩みを頭に収める。

次の仁徳天皇陵拝所ではボラントエアガイドから「三重の濠を有するわが国最大の古墳。甲子園球場12個分の広さ」など詳しい説明を受けた。

堺市博物館は、堺市制90周年記念事業として昭和55年(1980)に開館、令和元年(2019)、「百舌鳥・古市古墳群」が世界遺産に登録されて注目が広がり、累計来館者が300万人を超えたという人気博物館。市内



44基の百舌鳥古墳群からの出土品などをじっくり鑑賞して、皆さんすっかり古墳通に。午前中の勉強を終え、博物館前で全員の記念写真を撮り、公園内の「Cafe TROHA」でお待ちかねの昼食。「日々是好日ランチ」は、おばんざいセットに揚げたての野菜天ぷら、デザート、コーヒー付きで、お得感たっぷり。3カ月ぶりの例会とあつて、大いに話が弾んだ。1時間余りを過ぎたあと、緑に包まれた大仙公園内の一角にある日本庭園を散策、午後2時半すぎに例会は無事終了した。